

来月16日、大分市で公開講座

慢性腎臓病を知ろう



柴田洋孝教授



福長直也助教

高血圧、糖尿病に注意 食事の留意点は

い。今回の公開講座では特にCKDの原因として多い高血圧や糖尿病について講演します。また、CKDは原因にかかわらず、食事療法がとても重要になります。一人でも多くの県民がCKDについて知る機会にしてください。

× × ×

世界腎臓デー(3月9日)に合わせ、県保険者協議会や大分市などは3月16日午後1時から、同市のコンパルホール文化ホールで市民公開講座「来て見てガッテン 腎臓のこと」を開く。入場無料。大分大医学部内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座の柴田洋孝教授と福長直也助教は次のように話し、来場を呼び掛けている。

日本人は成人の8人に1人が慢性腎臓病と推測されています。高齢化で今後さらに患者は増える予想されています。

公開講座では、県内の医師と管理栄養士が糖尿病や慢性腎臓病、食事や生活での留意点を解説する。減塩料理を紹介するブースを設ける。

予約が必要で席に余裕があれば当日も受け付ける。代表者の氏名と人数、連絡先を記入し、大分市保健所健康課(ファクス097・532・3250、メール

kenko@city.ota.ota.jp)などで申し込む。締め切りは3月8日。問い合わせも同課(☎097・536・2562)へ。

慢性腎臓病(CKD)は腎臓が傷つき血液をろ過できず老廃物が体内にたまる病気です。原因として糖尿病や慢性糸球体腎炎、高血

圧症などがあります。初期に適切な治療を受けなければ進行し、末期腎不全になると透析療法や腎臓移植を受けなければなりません。また国内の慢性腎臓病患者は、一般の人に比べ脳卒中や心筋梗塞の発症率が高いことが分かっています。

日本人は成人の8人に1人が慢性腎臓病と推測されています。高齢化で今後さらに患者は増える予想されています。早期発見が重要で、健診で疑わしい結果が出たら、病院で受診して治療を開始してください。